

「世界の教会を覚える日」

渉外委員長 富永憲司（柏木教会牧師）

日本キリスト教会は、創立50周年を記念する2000年第50回大会において、「世界の教会を覚える日」を制定いたしました。以来、日本キリスト教会の諸教会や信者の方々には、8月の第1主日に、この「渉外委員会便り」において取りあげる諸教会を覚えて、執り成しの祈りと献金とをおささげいただくように、お願いをしてまいりました。

ところで、諸教会といっても、国内外には実にたくさんの教派、教会がございます。そこで、日本キリスト教会が加盟している「世界改革教会共同体（World Communion of the Reformed Churches=WCRC）に属する教会を取りあげ、同じ信仰の伝統に立つものの歩みを覚えていくこととしてきました。そして、本来なら、今回はマレーシアの改革教会を覚える予定でした。

ところが、今回は、新型コロナウイルス感染拡大に直面した世界の諸教会が、現在どのような事態に陥っているのか、その事態の中でどのようにして礼拝や宣教の業を進めようとしているのか、みなさまにもお知らせするのが良いのではないかと思います。そこで、予定のマレーシアの改革教会のご紹介は先送りし、「世界改革教会共同体」に属する諸教会でも紙面の都合上、日本キリスト教会と宣教協約を結んでいる在日大韓基督教会 The Korean Church of Christ in Japan (KCCJ、1997年調印)、台湾基督長老教会 The Presbyterian Church in Taiwan (PCT、2006年調印)、韓国基督教長老会 The Presbyterian Church in the Republic of Korea (PROK、2010年調印)、大韓イエス教長老会（統合）The Presbyterian Church of Korea (PCK、2011年調印)の4教会と、日本において定期的な交わりや情報交換をしている1教会1団体、すなわち日本キリスト改革派教会と日本基督教団全国連合長老会、そしてコロナ問題に関して詳細な情報を提供しているアメリカの長老教会の様子を紹介したいと思います。なお、それらの情報のうち、第2面に掲載の世界改革教会共同体（WCRC）から出された「新型コロナウイルスの世界的大流行の衝撃に対する応答」という文章は、豊島北教会牧師芳賀繁浩先生の翻訳文をほぼそのまま利用させていただきましたことを、この場をお借りして感謝したいと思います。

今年の「世界の教会を覚える日」には、是非これらの諸教会を中心に、世界や日本における主の教会を改めて覚えていただきたく、よろしくお願いいたします。

最後に一言。この日、全国の諸教会や信者のみなさまには、日本キリスト教会の渉外関係の働きを覚えて、献金をささげていただいております。それらの献金については、当日の「渉外委員会便り」に覚える教会に献げるという誤解も少なからず生じています。そこで、この時にお献げいただく献金は、あくまでも日本キリスト教会の対外的な渉外に関わるためのものにお用いするもので、日本キリスト教会財務委員会に渉外費として献げられるものであることをご理解いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

WCRC からの新型コロナウイルスの世界的大流行の衝撃に対する応答

フィル・タニス(広報担当幹事：2020 年 3 月 13 日付)

「人よ、何が善であり、主が何をあなたに求めておられるかは、あなたに告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである。」(ミカ 6:8)

世界改革教会共同体(WCRC)は、この前例のない急速に変化する状況の中で、見極めること、告白すること、証しすること、共に改革され続けていることを特徴とする世界的な交わりとしての誓約を遵守します。

この目標に向けて、感染の世界的拡大による未だ流動的な時の中にあっても、WCRC は、神がこの世界の中で働いておられること、私たちは神の召命を理解しようと努めなければならないこと、そして、その召命には、お互いへの、そして造られたすべてのものへの配慮が確かに含まれていることを理解しています。

私たちが互いに配慮し合うための方法の一つが祈りです。それゆえ、WCRC はその構成メンバーとすべての姉妹・兄弟たちに祈りを共にしてくださるよう求めます：

この感染症に罹患した人々のために、不安を覚えている人々のために、政府が知恵をもって適切で時宜にかなった対応をすることができるよう、医療と介護に携わる人々が互いに連帯して働くことができるように。努力が結び合わされ、協同して、世界全体での働きとなるように、人種差別と外国人嫌悪という狭い見方に囚われた人々のために、医師、看護師、介護師のために、医療を受けられない人々のために、国の、地域の、世界の医療機関のために、脆弱な人々と脆弱な立場にある人々のために。

憐れみ深い主よ、私たちの祈りを聞いてください。

WCRC は、メンバー教会の置かれている状況に対する対応、困難な状況の中で忠実であろうと努めている努力など、メンバー教会からの情報を集めています。新しい情報や要望をお持ちの方々の声をお待ちしています(wcrc @ wcrc.eu)。WCRC はすでに 2 月の初めに、改革教会パートナーシップ基金を通じ、メンバーである中国キリスト教協議会に医療品の緊急援助を行いました。

WCRC もまた、世界のまた国内の衛生局の勧告に従っています。スタッフとリーダーの移動は厳しく制限されており、ドイツのハノーファーにある本部事務局では「社会的距離」が確保されています。現時点では、オフィスが閉じられることはないと予測していますが、スタッフが罹患したり、在宅勤務の必要が生じたりした場合の対応は不確実です。週明けには、次期にかけて今後予定されている会議やイベントの計画が発表されることになります。

WCRC は、義と憐れみへの神の召命に心を留め、最も影響を受けた人々、弱い立場にある人々を私たちの祈りと働きの中心に据えながら、今後も引き続き答えていきます。

(芳賀繁浩訳)

コロナ禍に直面した諸教会の対応

1. 在日大韓基督教会

一つどころに集う礼拝は「感染リスクの高い環境」であるため、感染リスクを減らすための注意項目を列記、全国の教会・関係者に送付された。

地方会定期総会の中止、または延期が余儀なくされているなか、教会憲法および地方会規則には現在の状況に対応できる規程がないため、総会憲法委員会の見解を踏まえた上、総会任員会において、以下のように確認した。地方会の総会における決議が必要な案件もすべて地方会の任職員会において処理し、執行することとし、そこでの処理事項は次回通常の地方会の定期総会で報告、承認を受けなければならない。任職員会が開催できないか緊急を要する場合は、任員会が処理し、執行する。(注)「任職員会は地方会から委任された案件を執行し、地方会閉会期間中の諸案件を処理する」務めを担い、「任員と各部長と各教会、伝道所の担任牧師」で組織される。なお、「任員会は任職員会が委託した事項と、任職員会の決議を待つことが出来ない緊急な案件を処理する」務めを担い、「会長、副会長(牧師、長老)、書記、副書記、会計、副会計」で組織される。

2. 日本キリスト改革派教会

各教会・伝道所が孤立しないよう、大会執事活動委員会が連絡窓口を大会ウェブ上に設置し、継続して各群れの状況把握に努め、要望を受け止めている。教会として各群れに一律の対応を求めているわけではないが、それぞれにおいて適切な判断が下されるのに資するよう「大会議長声明」、「神学的考察」、「信仰的指針」、「注意喚起」などの文書が整えられ、すべて大会ホームページのトップページに公開されている。(http://www.rcj-net.org)

3. 日本基督教団全国連合長老会

2月24日(月・休)～25日(火)の「第66回宣教協議会」(於：横浜指路教会)および6月1日(月)～2日(火)の第45回全国連合長老会会議(於：蕃山町教会)を中止。機関紙「宣教」の6月号において、全国連合長老会会議議長である藤掛順一(横浜指路教会牧師)が主張欄に「新型コロナウイルスの脅威の下で」と題し寄稿、地域連合長老会、全国連合長老会はそれぞれの教会の長老会の判断を支えることが使命であると強調した。同「主張」は連長のホームページに公開されている。(http://zenrencho.jp/article.html)

4. 台湾基督長老教会(PCT)

1月30日の早い段階で、PCT「教会と社会委員会」は、疾病管制署〔厚生省に相当〕の指示を注視してマスク・消毒等の衛生対策を行うよう各教会に呼び掛ける書簡を公にした。その後、第64回期総会議長が、4月21～24日に予定されていた第65回PCT総会の延期を告知(当初は日程未定であったが、6月16～17日に日程短縮で行われることが決まった)。日本キリスト教会にも毎年招待状が送られる青年プログラム“I Love Taiwan Mission Camp”も、来年に持ち越しとなった。

東アジアの大教会におけるクラスター発生の報を受けた3月半ば以降には、いよいよ多くの教会がインターネット礼拝に切り替え始める中、その傾向に反対する「保守的」意見も公にされるようになり、オンライン聖餐執行の有効性などの議論に発展している。4月6日付の各教会宛て書簡「コロナウイルス・パンデミックへのPCTとしての対応」には、都市と地方の違いなど、各教会の置かれた状況によって対応が分かれていることが報告さ

れた。世界教会協議会(WCC)、アジアキリスト教協議会(CCA)、世界改革教会共同体(WCRC)や、宣教協約関係にある世界の諸教会と意見交換が盛んであり、各種のウェブ国際会議や神学協議会等に積極的に関わって、コロナ後の教会のあり方を問う最前線に立っている。

5. 韓国基督教長老会(PROK)

5月6日付で、日本キリスト教会を含む世界の諸教会に送られた挨拶状に、PROKとして公にしたコロナ対策のガイドライン―「ミニストリー」「社会的奉仕」「教会政治」「預言者のヴィジョン」に関する文書―が添えられている。これは、各教会に適切な衛生上の対策をとるよう呼び掛けるとともに、規制緩和に伴い生じうる教会の葛藤にも目を向け、経済的に弱い群れのサポートや、より確かな情報の分析・交換の必要性を訴えるものであった。また、朝10時ごとに日々の祈りを共にすることが呼びかけられ、信徒も職務者も広く神学的省察を深めるために協議のプラットフォームを構築する構えが総会にあることが示された。

韓国キリスト教教会協議会(NCCK)のメンバー教会として積極的に関わる朝鮮戦争70周年キャンペーンは、いくつかの記念行事を中止とせざるをえなかったものの、同協議会と世界教会協議会(WCC)等の共同メッセージを通し、南北の休戦状態を終わらせ平和条約を結ぶことが訴えられるなど、和解のための祈りの連帯を求める世界規模の運動として、大きな展開を見せている。

6. 大韓イエス教長老会(PCK)

PCK総会は感染蔓延が始まった1月下旬から、各個教会に向けて細かな対応ガイドラインを計8回にわたって発信している。これらのガイドラインは、礼拝を初めとする教会の諸集会の持ち方に関する指針を初め、会員の靈性に関わる奨励や、祈禱文なども含めた多様な配慮を示す内容となっている。現在、感染の沈静化を受けて、教会は活動を再開しつつあるが、ほとんどが礼拝のみの再開で、祈禱会、日曜学校、聖書研究会といった集会は依然ほとんどが休止中である。礼拝も、教会での礼拝とオンライン配信が同時並行で行われている。調査によれば、再開後の礼拝出席率は40%に留まっているという。

6月15日には250人規模の牧師や神学者が集まり「コロナウィルス以降の韓国教会」と題した神学協議会が行われ、ポストコロナの時代に礼拝の本質をどのように再確立していくかについて議論が交わされた。

7. アメリカ長老教会

新型コロナウイルスの蔓延を受け、アメリカ長老教会は6月20日から27日にかけて、メリーランド州ボルティモアで開催予定だった第224回総会を、全面オンラインでの開催に切り替えることを決定した。総会は19日に議長と副議長を選挙する準備会を開催し、議事は26日と27日の2二日間限定して開催される。現在、何を議題とするかを準備委員会で議論しているが、部局や委員会の活動報告の審議はすべて第225回総会に持ち越され、重要な議題のみを審議することになる模様。

同教会はホームページ上でコロナウィルス対策に特化したページを設け、パンデミック下での礼拝に関する細かな指針や、会議の開催に方法などに関わる法的なアドバイスなどを掲載している。これらの指針は神学的な検討はもちろんのこと、疾病対策センター(CDC)やWHOなどの医療専門家のガイドラインをもとにした助言も掲載されており、日本の諸教会のコロナ対応にも参考となる。[\(https://www.pcusa.org/covid19/\)](https://www.pcusa.org/covid19/)